

五つ子くん

その神秘的な誕生と周産期医学

鹿児島市立病院産婦人科部長
医学博士

外 西 寿 彦

芙蓉書房



五つ子くん

その神秘的誕生と周産期医学

鹿児島市立病院産婦人科部長
医学博士

外 西 寿 彦

芙蓉書房

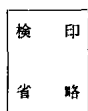


五つ子くん

—その神秘的な誕生と周産期医学—

芙蓉ブックス

昭和51年 8 月20日 第一刷発行



禁無断転載

著 者 外 西 寿 彦

発行者 上 法 快 男

発行所 株式 芙蓉書房
会社

東京都千代田区神田須田町1-28

電話 東京 (03)252-7376(代表)

落丁・乱丁本はおとりかえします。 振替口座 東京 8-104799

印刷 三晃印刷(株), 写真製版 (株)興陽社, 製本 佐久間製本(株)
0095-010183-7344 © 1976 H. Hokanishi printed in Japan

まえがき

昭和51年1月31日12時30分、鹿児島市立病院において、5つ子が誕生した。日本で初めての5つ子無事誕生のニュースはいち早く全世界につたわり、それ以来、われわれの一〇三日間にわたる哺育戦争が続いた。このような極小未熟児が一度に5人も生まれ、しかも揃ってすくすくと育つこと自体が奇跡に近いことであった。

幸い5人は10か月までおなかにいたお蔭で、小さいながらもよく成熟していた。このことが今日までの順調な成育ぶりに大きな役目を果たしている原動力である。未熟児とはかくいろいろなハンディを背負いがちである。しかし5つ子達は何ら障害も残さず育っている。

この5つ子達の毎日の成長記録は天気予報のように毎日報ぜられ、暗いロッキード事件のニュースとは全く対照的で、明るい話題として国民の大変な関心と声援をうけた。

あの1キログラムそこその小さな生命力の神秘ともいうべき驚異に、あらためて生命の尊さを知らされたといえよう。

5つ子哺育の投じた一石も大きかった。未熟児医療に対する一般の認識をたかめ、人類の幸福のために周産期医学の果す役目の重要性も知ってもらった。妊娠・分娩は一個の生命のスタートである。進歩した医学を十分あてねばならない。

5つ子達の分娩・哺育の記録は学問的にも貴重なものであるし、世のお母さん方や若い女性の方々にも是非よんで戴きたいと思って執筆を思い立った。

5つ子哺育によってえられた貴重な体験を今後の未熟児医療に大いに生かしていきたいと思っている。

今後5人が無事すくすくと育つためには、何らかの手がさしのべられなくてはならぬだろう。本書の出版がその一助になれば幸いである。

目 次

まえがき

昭和五十年十二月十五日（月曜日） 13

〔山下紀子さん来院〕

△註▽不妊症とは？ 17

昭和五十一年一月七日（水曜日） 28

〔五胎妊娠を確認〕

一月二十七日（火曜日） 32

〔特別プロジェクトチームを編成〕

一月三十一日（土曜日） 38

〔九分間で五児出産〕

△註▽排卵誘発剤とは？ 43

二月一日（日曜日） 51

〔山下頼充さん記者会見〕

二月二日（月曜日） 54

〔山下紀子さん記者会見〕

二月二日（月曜日） 56

〔生後三日目、初めての母乳〕

△註▽未熟児について 61

二月六日（金曜日） 73

〔山下夫妻 “お七夜” 記者会見〕

二月六日（金曜日） 76

〔清水寺貫主が名づけ親〕

二月八日（日曜日） 81

〔生へのひたむきさに打たれる〕

二月九日（月曜日） 85

〔真夜中に病院からの電話〕

△註▽母乳の効果 92

二月十三日（金曜日） 100

〔第二の大きなヤマ場を越える〕

二月二十五日（水曜日） 105

〔血液検査、培養検査を始める〕

三月一日（月曜日） 110

〔山下紀子さん退院記者会見〕

三月一日（月曜日） 117

〔二十四日ぶりの母子対面〕

三月八日（月曜日） 121

〔紀子さん退院一週間後の記者会見〕

三月八日（月曜日） 124

〔山下ベビーは五卵性？〕

△註▽世界の多胎記録 128

三月十四日（日曜日） 136

〔長男、長女は体重二五〇〇グラムを突破〕

三月十七日（水曜日） 142

〔紀子さん、初授乳後の記者会見〕

三月十七日（水曜日） 144

〔生後四十七日目、全員すこぶる順調〕

三月十九日（金曜日） 149

〔山下頼充さん、父子対面後の記者会見〕

三月十九日（金曜日） 152

〔温泉の沐浴開始〕

三月二十五日（木曜日） 158

〔山下紀子さんの再入院〕

三月三十一日（水曜日） 163

〔五児のカルテ寸評〕

△註▽チーム医療（ひとりの名医よりチームワーク） 167

四月十九日（月曜日） 177

〔母子の青空記者会見〕

四月十九日（月曜日） 180

〔長男、新生児室からママの手へ〕

四月三十日（金曜日） 185

〔五児全員、未熟児を卒業〕

五月十一日（火曜日） 191

〔あす、五児は東京の日大病院へ〕

△註▽周産期医学とは？ 197

五月十二日（水曜日） 207

〔山下頼充さん“お別れ記者会見”〕

五月十二日（水曜日） 210

〔生後一〇三日目〕

△註▽山下夫妻のさわやか語録と聞き書き 214

むすび 225

あとがき 235

付表

1 山下ベビー誕生略年譜

2 世界の五胎記録（一六九四年～一九三四年）

3 五つ子の発育曲線

4	五つ子四十五日間の体重推移（棒グラフ）
5	五つ子体重—昭51・1・31と51・5・10—の推移（棒グラフ）
6	体重の推移（一〇三日間の記録）
7	検査成績と培養成績
8	鹿児島市立病院不妊クリニック一般検査（例）

装丁 安野光雅

写真提供

南日本新聞社
主婦の友社
鹿児島市立病院
外西寿彦

五つ子くん

その神秘的な誕生と周産期医学

昭和50年12月15日（月曜日）

〔山下紀子さん来院〕

きょう、3、4年前に、わたしが子宮筋腫の手術をした藤安重子さんが、娘さんの紀子さん（27歳）を連れて、外来にみえた。

やせて、きゃしゃな美人、というのが、わたしの第一印象である。

妊娠8か月目。おなかがたれさがっているほど、大きいのが目をひいた。

紀子さんは、この病院の森副院長（小児科）に、子どもの頃、それこそ自分の主治医の如く、よく世話になっていた。

紀子さんと鹿児島市立病院は目に見えないえにし、の糸で結ばれているのかもしれない。初診時所見。

栄養体格中等度。身長157センチ。体重48キロ。腹囲91センチ。子宮底の高さ36センチ。腹部は膨隆著明、やや懸垂状である。腹壁の妊娠線も著明。

検査成績。

尿たん白マイナス。糖マイナス。pH 6・0。赤血球数 367×10^4 。Ht 34・6パーセ

ント。白血球数7600。血色素量12・1グラム。血小板数158000。肝機能検査異常なし。血液・0型Rhプラス。

おなかの中の胎児については、恥骨上方に胎児の頭のような、ゴツツとした抵抗を感じとれるほかは、はっきりしない。

しかし、心音は、下腹部正中線上と臍の左上方に、それぞれ異なったリズムとなって聞こえるようだったが、もうひとつ明らかでない。

この段階で、まず、双胎ではないかと疑いをもつ。

それにしても、おなかが異常に大きすぎるのが気になる。レントゲン撮影を行なう。

レントゲン撮影の結果では、3胎確認することができた。頭位2胎、骨盤位（さか子）1胎である。

レントゲン検査では、まだ胎児が熟成されていない時期や、胎児の位置などによって、見すごしてしまうばあいがある。念のため、超音波断層撮影を行なった。

この結果、4胎確認した。頭位2胎、骨盤位2胎である。

紀子さんには、おなかの中の赤ちゃんは4人であることを伝える。